



150th Anniversary

三重県誕生
150周年

守り、未来へつなぐ

自然 と 文化



150周年の歴史を詳しく見る

● 1882年
日本初の公認海水浴場、二見浦海水浴場が開設される

● 1946年
伊勢志摩国立公園が戦後初の国立公園に指定される

● 1975年
「第30回国民体育大会みえ国体」が開催され、県内各地が競技会場となる

● 1979年
斎宮跡が国史跡に指定される

● 1984年
関宿の町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定される

● 1994年
世界祝祭博覧会（まつり博・三重'94）が開催され、県内全69市町村が参画する

● 2004年
「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部である熊野参詣道伊勢路が世界遺産に登録される

● 2016年
G7伊勢志摩サミットが開催される

● 2023年
G7三重・伊勢志摩交通大臣会合が開催される

● 2026年
伊勢志摩国立公園指定から80周年を迎える



伊勢市 伊勢神宮



伊勢市 夫婦岩



熊野古道 松本峠
(写真提供:三重県観光連盟)



「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録

慈しまれた自然と地域文化 Cherished Nature and Local Culture

三重県は、豊かな自然に恵まれ、古くから多くの人々を魅了してきました。特に約2000年の歴史を持つ伊勢神宮は、日本人の心のふるさととして、多くの参詣者を迎え、三重の自然や文化の基盤を築いてきました。

三重県には、自然と伝統文化が共存しており、1946年（昭和21年）には戦後初の国立公園として伊勢志摩国立公園が指定されました。また、2004年（平成16年）には「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部である熊野参詣道伊勢路が世界遺産に登録され、三重の自然と文化の価値は世界にも認められています。

さらに伊勢志摩国立公園の豊かな自然や、先人の知恵と営みが刻まれた丸山千枚田は、地域住民によって大切に守り継がれてきた地域文化の象徴です。千年以上の歴史を持つ海女漁は、海と共に生きる人々の暮らしと精神を今に伝えています。加えて桑名石取祭や上野天神祭、熊野大花火大会などの祭りや花火は、地域の誇りとして世代を超えて受け継がれ、地域の絆を育んできました。また、関宿をはじめとする昔ながらの町並みは、江戸時代から続く歴史を今に伝え、訪れる人々に懐かしさと新たな魅力を感じさせます。

これらの自然や文化は、先人たちのたゆまぬ努力によって守り、築き上げられてきたものです。伊勢神宮や熊野古道だけでなく、地域に根差した祭りや伝統文化も受け継がれ、三重ならではの特色として現在も息づき、未来へと受け継がれています。



桑名市 桑名石取祭 (写真提供:三重県観光連盟)



伊勢市 鳥羽市 志摩市 南伊勢町 伊勢志摩国立公園



志摩半島南部 英虞湾の澄んだ海



伊賀市 上野天神祭
(写真提供:三重県観光連盟)



紀北町 きほく燈籠祭
(写真提供:三重県観光連盟)



熊野市 熊野大花火大会

生き続ける文化、息づく伝統 Living Culture, Enduring Traditions

三重の文化や伝統は、時代の流れに任せて残ってきたものではありません。

熊野古道は地域住民の努力により現在の姿に整備され、関宿は旅人を支える町として人々が暮らしを紡いできました。海女漁もまた、厳しい海と向き合いながら受け継がれてきた知恵の結晶です。さらに、祭りや花火といった行事は、地域の人々が工夫と情熱を注ぎ、世代を超えて守り継いできました。こうして三重の文化は、人々の手によって築かれ、磨かれ、未来へとつながっているのです。



熊野市 丸山千枚田



亀山市 関宿



鳥羽市 海女漁 (写真提供:ミキモト真珠島)